

忘年山行 関八州見晴台 & 三滝 ～滝を巡る探検ごっごのような山歩き～
廣谷 明子

日 時：2019年12月1日（日）

メンバー：十名

コース：西吾野 9：20・萩の平茶屋跡 10：17/10：27…不動茶屋跡 11：07/11：17…
関八州見晴台 11：30/12：00…高山不動尊 12：30/12：40…白滝 13：10/13：
20…不動滝 13：40/13：50…大滝 13：35/14：40…西吾野駅 15：30

山行部としてハイキングのリーダーをするように、と二宮山行部長より指示があり、いくつかの山の中から関八州見晴台を担当したのは、前に所属していた山の会の年長者が「通称“八州廻り”と呼ばれたこの役職・組織は、関八州を担当する今で言えば特別広域機動捜査隊といったところの組織である…」とかなんとか蘊蓄を語っていたのが心に残っていたからです。今よりは時代劇が放映されていた時代でしたが、当時でも「八州廻り」は、その時初めて聞いた言葉でした。

計画を公開してもなかなか参加者が集まらず心配していたのですが、結果的に当日松戸からの日帰り参加者も含め 10 名のパーティーとなりました。SL に引率されたメンバーと無事、西吾野の駅で合流し、登山口を目指します。杉林の登山道をジグザグに切って登り進みます。時折杉の間から武甲山が見えます。ちなみに関東八州とは、安房・上総・下総・上野・下野・常陸・武蔵・相模を指すそうです。昔は頂上で関東平野を一望できたのでしょうか。残念ながら現在では 360 度とは言えず、富士山から奥武蔵・秩父、奥多摩の山々の眺めが時折楽しめる程度です。それでも大岳山ががりっぱに見えます。

山頂で昼食を取ったのち、三滝に向かいます。ほとんど期待はしていなかったのですが、カエデの紅葉も見事でした。その前に高山不動尊に寄ります。656年の創建とのこと。なかなか由緒ありそうな古刹です。本当は山頂直下の登山道を下るはずだったのですが、道が見当たりません。林道をクネクネくだり不動尊に着きます。こんな人里離れた山奥にりっぱな古刹があることにびっくりです。

道標に添ってまずは白滝から。登山道から細い痩せた道に入ります。雨の後などは滑り



そんな嫌な道を慎重に歩きます。

山頂はハイカーで賑わっていたのに、滝方面にはほとんど人がいません。白滝は三滝の中で最もひっそりとした滝で、名前のように細くはかなげな滝でした。来た道に戻り次は不動滝です。どんどん沢から離れるので、果たして本当にこの先に滝があるのだろうか、と心配になりましたが無事ありました。水量は決して多くはないのですが、滝の周辺は彫刻のような岩の様子が美しく、期待以上の良さがありました。

これでもう滝巡りは十分、という気分ではありましたが初志貫徹ということでいよいよ大滝を目指します。大滝というからには、三滝で一番見応えがあるだろうと、でも秩父の滝だからあまり期待はできない、と相反する気持ちでどんどん谷に下ります。かなり下った先に「あった」と思ったら、ただの堰堤のような人工物。どこにあるの？と思って左に回り込んだらその名に恥じない（というのは大げさ！）15mの大滝がありました。またしても安堵するリーダーでした。

わざわざこんなマイナーなコースを選び引率しておいて、あまりにつまらない滝だったらどうしようと終始不安でしたが、さすが山の会のメンバーは心が暖かく、どんな貧相な滝であっても文句を言うこともなく、道迷い気味のリーダーをしっかりと補佐してくれました。心遣いがありがたかったです。何度も「貧相な滝」と連呼しましたが、本当に滝？とは言い難いのですが、無名の滝であろうと山の中で出会う風景は有名無名に関係なく、心を癒してくれます。仲間と「ああだこうだ」と言って歩くのは物にも代えがたい大事な時間です。

皆様の協力により無事山行ができて安堵しています。お天気にも恵まれました。貧相な滝でしたが、なかなかわざわざ松戸から三滝を見に来る機会もないと思います。滝好きにはなかなか良いコースと思いますが、そんな好事家いましたっけ？松戸山の会には。

